岡田宮

宝永４年（１７０７）　貝原益軒書

第 68 号
令和元年11月吉日
発行　岡田宮社務所
郵便番号　806-0033
北九州市八幡西区岡田町１番1号
電 話 (093) ６２１-１８９８
FAX (093) ６２１-５３３０
ホームページ http://www.okadagu.jp/
E-メール okadajinja@jcom.home.ne.jp

第126代目の天皇陛下が即位され令和の御代が始まりました。
初代天皇である神武天皇ゆかりの岡田宮にお参りされませんか。

目次

天皇陛下御即位 …… 1
岡県紀行⑧ …… 2
神社なぜなぜ問答68 …… 2
第二十五回 岡田神社書道展 …… 3
年末年始の行事案内…… 4
令和2年の厄年 …… 4

年末年始の行事案内

●大祓（おおはらえ）　十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深（かんじょう）い行事です。

形式に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料（お思召し）と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

●恵方祭（えほうさい）　十二月三十一日　二十三時半

子宝恵方犬の向きを東北東から西南西に変えます。

●歳旦祭（さいたんさい）　一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにと願う神事。

午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。

●開運福引き　一月一日～三日

一枚五百円でハズレなし。一等は羽根ぶとんなどが当ります。新年の運だめしにどうぞ。

●どんど焼祭　一月十三日（月）成人日

古くなったメ縄、門松等を焼納する神事。

地元の有志による餅まき、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。

令和2年算賀の年祝

（年齢は数え年）

還暦	六十一才	昭和三十五年生
古稀	七十才	昭和二十六年生
喜寿	七十七才	昭和十九年生
傘寿	八十才	昭和十六年生
米寿	八十八才	昭和八年生
卒寿	九十才	昭和六年生
白寿	九十九才	大正十一年生

令和2年の八方除

七赤金星の方

生年	年齢（数え年）
昭和五年	九十一歳
昭和十四年	八十二歳
昭和二十三年	七十三歳
昭和三十二年	六十四歳
昭和四十一年	五十五歳
昭和五十年	四十六歳
昭和五十九年	三十七歳
平成五年	二十八歳
平成十四年	十九歳
平成二十三年	十歳

令和二年の厄年

（年齢は数え年）

厄年（男）

二十四才	前厄	平成九年生
二十五才	**大厄**	**八年生**
二十六才	後厄	七年生
四十一才	前厄	昭和五十五年生
四十二才	**大厄**	**五十四年生**
四十三才	後厄	五十三年生
六十才	前厄	三十六年生
六十一才	**大厄**	**三十五年生**
六十二才	後厄	三十四年生

厄年（女）

十八才	前厄	平成十五年生
十九才	**大厄**	**十四年生**
二十才	後厄	十三年生
三十二才	前厄	昭和六十四年生・平成元年生
三十三才	**大厄**	**六十三年生**
三十四才	後厄	六十二年生
三十六才	前厄	六十年生
三十七才	**大厄**	**五十九年生**
三十八才	後厄	五十八年生
六十才	前厄	三十六年生
六十一才	**大厄**	**三十五年生**
六十二才	後厄	三十四年生

◆厄年大祭　二月節分日

岡県紀行⑧

帆柱山系での雨乞い

岡田宮の南東にそびえる帆柱山系。岡田宮とこの山々は雨乞いの祈祷を通じて関わりがあった。

岡田宮の記録によると、幕末の嘉永・安政年間（一八四八～六〇）頃、梅雨の真っただ中の旧暦六月になっても降雨がほとんどない年があった。他の史料から嘉永五年（一八五二）のことと推測される。

そこで雨乞いをすることになった。六月八日から熊手村の「皿倉・坊寿」両山で祈祷が行われた。「坊寿」とは坊住、すなわち権現山（杉山）のことと考えられる。翌九日夜、雷鳴・稲光が烈しくなり、大雨が降った。その雨で黒崎宿内の中橋辺りの家々では降水が敷居を越えるほどであった。中橋は現在の宿場通り（旧安川通り）の北側を流れていた中川に架かっていた橋である。また、黒崎周辺の村々では田圃に水が溜まり、人々は安心したという。

皿倉・権現山で行われた雨乞い祈祷は千把焚きと呼ばれるもので、山頂で萱（茅）を積み上げ、大きな火を焚いた。文化九年（一八一二）八月、日照りのため、遠賀郡尾倉村・馬場山村・前田村が帆柱山で雨乞い「千把萱焚」を行った事例もある。

「筑前国続風土記」には、皿倉山は「郡中第一の高山也」とある。天に近い高山であることから帆柱山系で祈祷が行われたと考えられる。

ところで、春日神社の末社であるが、皿倉山に「祈雨神社」という社が、慶応四年（一八六八）にはあったことが確認できる。

旱魃の際には雨乞い祈祷を行い、恵みの雨を降らせることが鎮守には期待されていたのである。

「筑前国図」（天保国絵図、国立公文書館蔵）杉山（権現山）・帆柱山（古城跡）・皿倉山・花尾山（古城跡）部分

（北九州市立自然史・歴史博物館学芸員　守友　隆）

神社なぜなぜ問答（その68）

「竈神」（かまどがみ）とはどのような神さまなのですか。

年末年始に、神社の社頭や神職・氏子総代の手により、新年に家庭でお祀りするお神札一式を頒布しますが、この中に竈神のお神札が含まれていることがあります。

竈神は「荒神」「三宝〈方〉荒神」「釜神」「火の神」などさまざまな呼称があり、主に竈を中心とした各家の火を扱う場所にお祀りされる神様です。

食物の煮炊きに用いられる竈は、通常一軒に一カ所であったため、竈はその家を象徴するものと考えられました。分家することを「竈を分ける」などというのも、こうしたことによるものです。

竈の守りとして祀られる竈神は、単に火伏せの神としての御神格だけではなく、農作の神やその家の富や生命など生活全般を司る神として広く信仰されるようになりました。屋内の場合、竈の近く（現在では台所など）に神棚を設けて、お神札や幣串を納めて祀るのが一般的ですが、地域によっては竈神の形相を表した面を祀ったり、松や榊などを竈神の依代とする事例なども見ることができます。

さて、竈神の具体的な御神名ですが、『古事記』に大年神の子として、「奥津日子神、つぎに奥津比売命、またの名は大戸比売神。此は諸人のもち拝く竈神なり」とあるように、奥津日子神、奥津比売命の二柱の神、若しくは大年神を合わせた三神が竈神とされています。

火の清浄を保つため、神祭りや葬祭などには別火を用いたり、大晦日に竈火を新たにして竈祓いの行事をおこなうことなどより、竈火を神聖なものとして扱う信仰を見ることができます。

第二十五回 岡田神社書道展

会　期　令和元年7月20日(土)～29日(月)
表彰式　令和元年7月29日(月)
総出品点数　712点

岡田宮賞

小2 山岸 ゆず　小3 岩熊 里歩　小4 森田 琴音　小5 内田 晴子　小6 武田 将輝　中1 髙田 琴　中2 山下 雛　中3 今村理々紗

総代会長賞

小2 小田 倖温　小3 戸川 優芽　小4 石 一冉　小5 吉良 汐莉　小6 田野 美空　中1 武田 もも　中2 渡邉 怜　中3 安部 成華

特選

小2 吉良 和紗　〃 塚本 椋大　〃 廣瀬 里真　〃 宇高よもぎ　〃 西嶋 涼　〃 槌本 慧　小3 武田 美里　〃 林 優詩　〃 福永沙羅々　〃 永山 実莉　〃 藤井陽奈子　〃 熊谷 侑真　〃 伊藤 百　〃 玉江 美月

小3 益田 彩想　〃 下川 唄依　〃 土器屋陽菜乃　〃 重岡 美音　〃 有久 維吹　〃 下田 淳介　〃 諸冨 葵　〃 冷牟田あみ　〃 坂本あすみ　〃 内田さとこ　小4 江口 葵　〃 坪井 紅　〃 有岡 美佳　〃 山下 蒼依　〃 水上 煌大　〃 堀尾 苺生　中1 加地 陽菜　〃 谷口 明奈　〃 宮川 瑛斗　〃 早川 結衣　〃 牧 美月　〃 角 そら　〃 小茅 沙紀　〃 香月 杏樹　中2 鬼ケ原正晃　〃 橋本 美桜　〃 平野 初　〃 井上 華　〃 荒木 優奈　中3 今村 樺奈　〃 石橋 淑子　〃 黒木 鈴花　〃 谷口 紗月　〃 岸本 萌花　〃 中村 優里

小5 柴田 結菜　小6 恵良 楓　〃 前田 彩晴　〃 彌勒 聖日　〃 山本 蒼宇　〃 小島彩恵子　〃 西口 心結　〃 金久保ふあり　〃 浜武貫太郎　〃 十河 姫菜　〃 戸川 咲世　〃 内山 青弥　〃 渡邉 優子　〃 樋口 葵　〃 火ノ口楠奈　〃 加地 陽菜　〃 柴田 藍奈　〃 花田 愛珠　〃 益田 称寧　〃 青井 万桜　〃 藤川 未祐　〃 香月 杏樹　〃 鬼ケ原正晃　〃 橋本 美桜　〃 平野 初　〃 井上 華　〃 荒木 優奈　〃 石橋 淑子　〃 黒木 鈴花　〃 谷口 紗月　〃 岸本 萌花　〃 中村 優里

岡田神社の境内にあるスタジオ
お宮参り・七五三の参拝時の着物レンタルが
0円から借りられます。
16,000円～（四切り2枚・衣裳・着付・ヘアメイク付）
有川写真館
岡田神社STUDIO
北九州市八幡西区岡田町1-46　093-621-2080